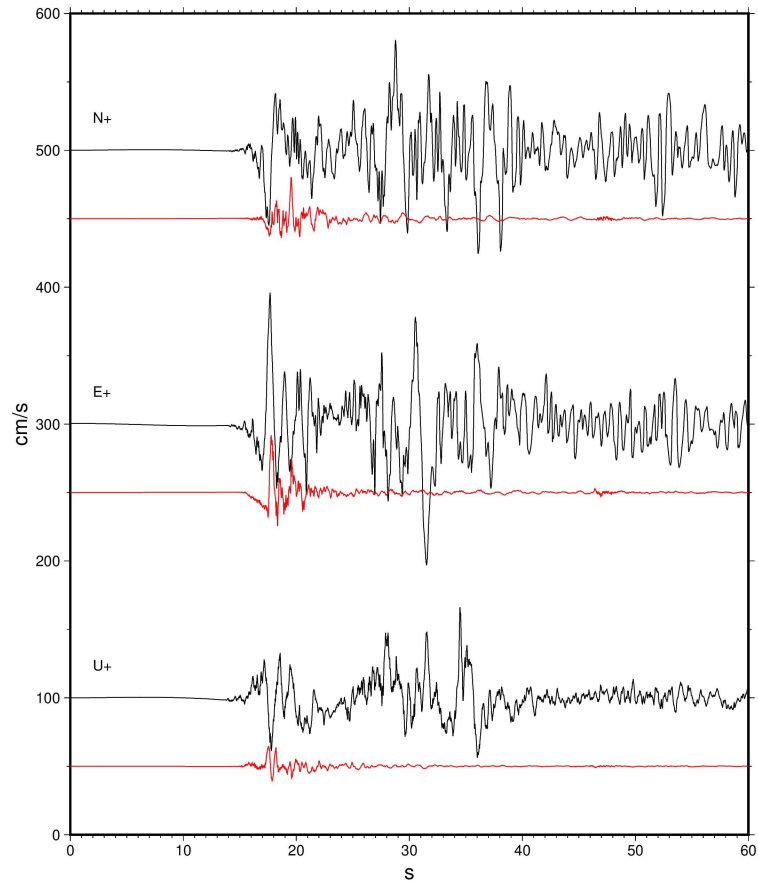
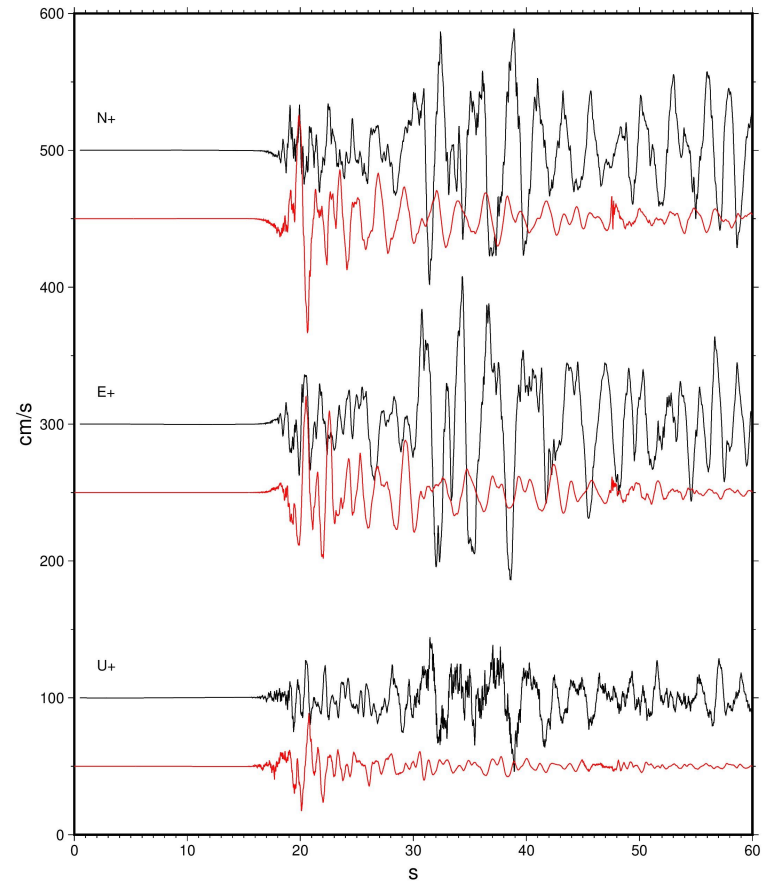


2023/5/5 M6.5の記録(赤)とM7.6の記録の比較(速度波形)

ISK001大谷

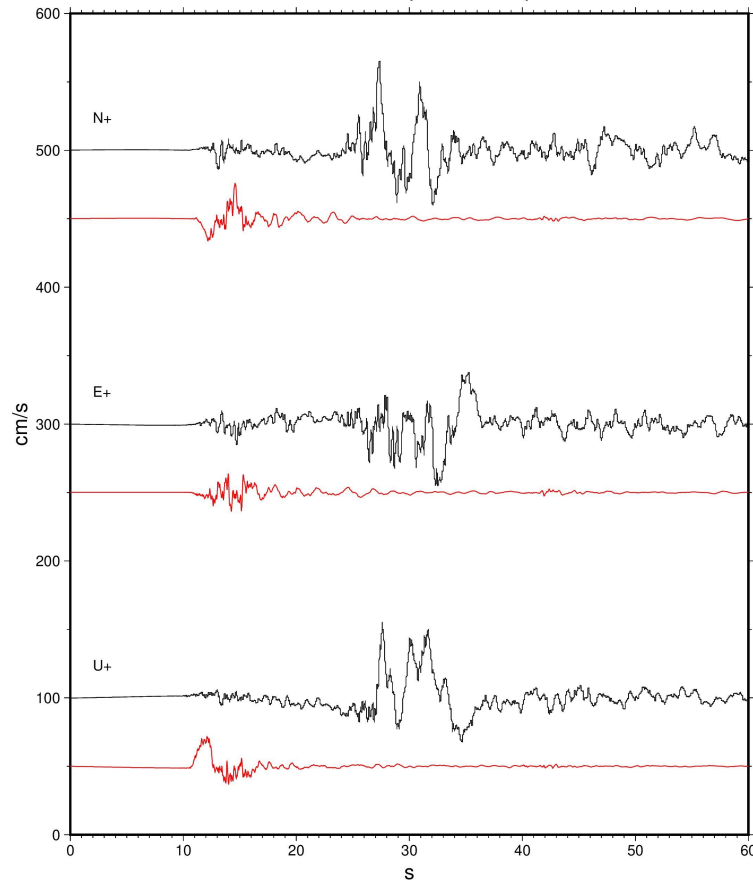


ISK002正院



2023/5/5 M6.5の記録(赤)とM7.6の記録の比較(速度波形)

ISKH01珠洲(孔底)

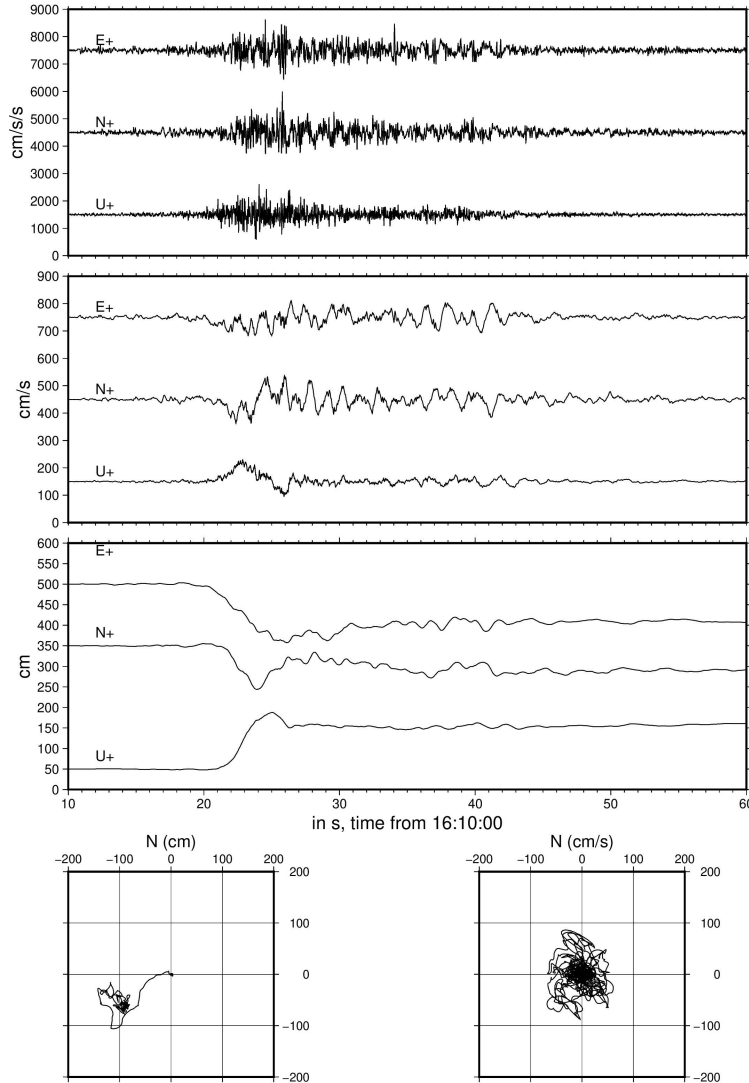


(前ページより)M6.5の記録は、16時10分9秒のイベント(気象庁のM5.9)波形に並べて記載している。サイト特性が強いISK002ではわかりにくいですが、ISK001やISKH01では、16時10分9秒のイベント波形の後にM6.5の記録に見られない長周期の震動があり、10分22秒のイベント波形が現れている。

強震記録を用いた震源過程(暫定)と比較すると、M5.9の破壊開始点から始まった破壊は浅い方向、西の方向へ伝播しているが、ISK001はその破壊が向かう方向にあり、ISK002とISKH01は破壊が遠ざかる方向にあるため、振幅が
ISK001 M5.9 > M6.5
ISK002及びISKH01 M5.9 < M6.5
の関係になっている。

ISK003(K-NET輪島)の変位の様子

ISK003



ISK003(K-NET輪島)の加速度記録を基線補正を施して速度, 変位波形にしたもの(フィルターなし).
最下段左は水平面上の変位履歴.

・変位記録からは西南西方向に1.02m移動し, 1.12m上昇したことを示している. 主たる変位は10秒以内で終わっており, 震源断層モデル(暫定)とも定性的には対応している.

・この地点から約2km南西に離れたGNSS観測点では西南西方向に123.4cm移動, 104.9cm隆起のほぼ同様の観測結果が得られている.

岩田知孝